

セカンドライフとして長年の夢であった喫茶店を創業

下田 真智子<個人事業>(鳥取県)

63才女性、定年退職後に喫茶店を創業。

1. 相談のきっかけ

- ・実家がお好み焼き店だったこともあり、生命保険会社退職後、セカンドライフに喫茶店を経営したい。
- ・JA子会社所有店舗が借り手を探しているとの情報を入手し創業を決定。
- ・当初相談をしていた鳥取県信用保証協会から、当拠点を紹介され、倉吉市立図書館での相談会に参加(H.27.6.26)。

2. 課題整理・分析

【強み】

- ・過去の職歴の中で、通算で約5年の飲食店勤務の経験がある。
- ・これまでの仕事などの付き合いがある知人が300名程度いる。

【課題】

- ・自己資金は乏しいため、金融機関からの融資等により資金調達の必要があった。
- ・創業の計画策定や経営知識の習得が必要であった。

3. 解決策の提案

【準備】

- ・創業計画の策定をサポート。
- ・倉吉市立図書館とも連携し、「商圈マーケティング調査」を実施、商圈を3kmとするよう提案。
- ・創業スクールへの参加や地元商工会議所への加入による知識の習得や支援者の確保を提案。

【資金】

- ・金融機関への融資申し込み手続き等のサポート。

4. 成果

- ・具体的なメニュープランや見込顧客リストの活用等を含む創業計画、行動計画が完成。創業スクールへは8月以降の参加を予定。
- ・倉吉商工会議所へ加入し、信用保証協会、JA、市立図書館との連携も構築され、今後もサポートを連携して行う体制が構築された。また、今回融資を実行したJAも「鳥取県産業支援ネットワーク」の支援機関としての参加について、当拠点から鳥取県に要請中であり、さらに支援機関とのネットワーク連携が深まり、事業者への手厚い支援体制が完成しつつある。
- ・H27.7.21に金融機関からの融資が実行されH27.8.2(日)に店をオープン予定。



店舗外観



ボンヌのチラシ



創業者の下田さん